

## インド 紅海危機がブドウの出荷シーズンを攪乱

[ASIAFRUIT 2024年4月15日](#)

輸出シーズンが終わりに近づく中、大手生産・出荷業者であるサヒヤドリ農場のアズハル・タンブワラ氏が、ヨーロッパへの輸送時間が長くなったことで損なわれた困難な出荷シーズンを振り返る

**インドの生食用ブドウの輸出シーズンは最終段階に入っているが、今年の出荷量と品質はどうであったか。**

**アズハル・タンブワラ氏:** 出荷量は例年とほぼ同じで、中国は昨年よりも多くなっている。今年は品質があまり良くなく、輸送時間が長いと、果実の着荷とその時の状態に問題が生じている。紅海危機のため、すべての船会社は喜望峰を回ってヨーロッパに航行している。船会社は32~33日の輸送日数を約束しているが、船は40~45日で目的地に到着し、これは果実にとって良いことではない。何も計画通りに入っていないため、輸入業者は販売計画を立てることができない。このことと、南アフリカ産果実の同じような港湾の問題が重なって、現在はちょっとした悪夢である。

**ヨーロッパと英国にはどれだけの数量が出荷され、例年と比較してどうか。**

**タンブワラ氏:** 約1万コンテナがEU、英国、ロシアに出荷され、約500コンテナが極東に出荷された。中東向けがさらに約1千コンテナあり、湾岸諸国全域に出荷されている。

取扱量は大幅に増えたり減ったりしていないが、数週間の間にEUへの到着量が増えたという問題があり、これは船舶のスケジュールが不規則なため予想外であった。これにより、市場の見方が大きく変化した。輸出業者は、通常の3週間の航海日数に対して5週間の航海日数を見込み、計画目標を達成するために早めに積み込みを行っていたが、現在、果実が到着するまでに6~7週間かかっている。

**ヨーロッパと英国での市場の需要はどうか。残りの出荷シーズンはどのように展開していくと思うか。**

**タンブワラ氏:** 市場の需要は安定しており、実際、取引先との契約は増加する一方である。しかし、先ほど触れた出荷の混乱により、すべての小売業者は、余剰の果実の多くを動かし、市場を安定させるために販促活動を行うことを余儀なくされている。

全般的な需要は良好で、英国では高品質の果実の価格が良い。しかし、ここでは着荷時の品質がより大きな問題であり、平均以下の果実の行先を見つけようとすると全体的に悲惨な状況になっている。

**紅海危機の結果として、より多くの果実をヨーロッパの代わりにアジアや他の輸出市場に出す動きはあったか。インド国内で販売される果実は増えているか。**

**タンブワラ氏:** もちろんだ。EUとロシアの状況により、他のより近い市場との協力が重点が置かれている。しかし、他の市場はすべてそれほど大きくないため、EUへの依存を払拭することは決してできない。インドの国内市場は常に存在し、輸出市場よりもはるかに大きい。生産者が輸出市場から受け取るプレミアム価格を支払うことはない。今年、新品種のより高品質なブドウを国内市場に販売した経験から、従来品種の国内市場が低迷している場合でも、プレミアム商品に最高額を支払うことをいとわない目の肥えたインド人の顧客が一定程度いることがわかった。

執筆者: ジョン・ヘイ